

第1回政策会議		出席者	<input checked="" type="checkbox"/> 越田市長 <input checked="" type="checkbox"/> 小田副市長 <input checked="" type="checkbox"/> 石田教育長	2 課題
日時	2019年1月25日		総合政策部 <input checked="" type="checkbox"/> 松木部長 <input checked="" type="checkbox"/> 作田副部長	
場所	副市長応接室		教育推進部 <input checked="" type="checkbox"/> 若生部長 <input checked="" type="checkbox"/> 中西副部長	
作成者	資料 志波課長 会議録 作田		<input checked="" type="checkbox"/> 志波学務課長	
議題	多田グリーンハイツ地区・清和台地区における小学校統合計画について			
1 現状			【手順書の住民説明】 「学校配置の適正化に関する手順」を作成後、平成29年5月以降、保護者や地域住民への説明を行い、統合年度や使用する学校の選定は未定であることを伝えた。しかしながら、 <u>保護者や地域住民からは十分な理解が得られていない。</u>	
<p>(1) 経緯その1...【平成27年8月】校区審議会からの答申を踏まえ統合計画を決定 両地区での統合は、教育の質の維持・向上のために必要であると判断し、定例教育委員会で小学校統合計画を決定。</p> <p>(2) 経緯その2...【平成28年6月】統合計画の再検討 児童数推計の値と児童実数に乖離があったこと、計画決定プロセス（行政主導のみによる意思決定）について見直しの必要があるとの判断から、両地区での進め方について「再検討」することに決定。統合年度や学校選定まで示した「当初の統合計画」は再検討することとした。</p> <p>(3) 現状...【平成29年2月～】手順書の作成と運用 平成29年2月に「多田GH地区・清和台地区における学校配置の適正化に関する手順」を作成。児童数推計に基づくのではなく「両地区において、いずれかの学校の複数学年に単学級の実態が現われた時点から検討を始める」とした。 平成30年度当初時点では上記の実態が現われなかったため、具体的な検討はスタートしていない。</p>			<p>(主な反対意見)</p> <p>「統合」が前提となっていることが不満 検討を開始する時期が拙速すぎる（100人以下ぐらいでも良い） 「手順」が必要となる理由が分からない（白紙で構わないのではないか） 多田GH地区では、児童数が増えてきているので統合は必要ない 統合が定まっていないことが不安で地域が混乱し、転入を考えている人も敬遠している 跡地利用についても併せて検討すべき</p>	
3 担当部が考える方向性			4 質疑・意見	
<p>多田グリーンハイツ地区・清和台地区における<u>小学校統合計画は白紙</u>とする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>理由</p> <p>これまでの進め方では、保護者や地域住民の皆様の声を十分に把握できていなかった 学校配置は、教育の視点のみではなく「まちづくり」の視点と合わせて検討する必要がある</p> </div> <p>保護者や各地域の皆様のご意見をお聴きしながら、市全体の課題として改めて検討する</p> <p>【公表までの主な工程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1月24日（木）開催の定例教育委員会で可決した 市議会、当該校の学校教職員、連合PTA及び当該校PTA役員、両地区コミュニティ役員に事前説明 3月議会招集日（2月20日）に市長が施政方針にて表明 プレス発表、HP掲載、当該校保護者への文書配布、両地区のコミュニティ・自治会での文書回覧により住民へ周知 			<p>市長 施設の老朽化とこどもが減少していくことが解決しなければならない課題であることには変わらない</p> <p>市長 子どもを中心において、地域のあり方を含めて「学校」を考えることが大切である</p> <p>市長 地域への周知は丁寧に行うこと</p>	
			5 結論	
			<input checked="" type="checkbox"/> 原案のとおり進める <input type="checkbox"/> 原案を一部修正し、進める <input type="checkbox"/> 原案を修正し、再度協議する	